

AIがもたらす人事の未来

日本生産性本部は12月10日、第100期「人事部長クラブ」の12月例会を都内で開催した。当日は「AIがもたらす人事の未来」をテーマに、今井翔太・北陸先端科学技術大学院大学客員教授（Genesis AI代表取締役社長CEO）が講演した。

今井氏は、AI研究者の思考やAIの進化に関する考え方の原則に触れたうえで、現在の生成AIの動向について、2024年以降、生成AIを核にして、外部のツールを使いながら複雑な作業

新しい仕組み構築を

人事部長クラブ 今井氏が講演

を行う「AIEージェント」と呼ばれる手法が盛んに研究されていると指摘。生成AI以降は「高学歴で高いスキルを身につけている者が就くような賃金が高い仕事であるほどコンピュータ/AIによる自動化の影響を受けやすい」と述べた。また、生成AIの8割が何らかの影響を受け、さらにその2割は仕事の半分以上が置き換えられる可能性があることや、ク

果が出ており、むしろ人間の作業による価値が高まる余地があることを指摘した。さらに、現在のAI技術の発展スピードは、AI研究者自身ですら予想できない段階に入っており、今後数年程度で、人間の知的可能性が高い」と述べた。また、生成AIの登場により、全職種を受け、さらにその2割は仕事の半分以上が置き換えられる可能性があることや、ク

人間が本来数カ月かかっていた作業を全てこなすことができると期待されること、肉体的労働が可能なロボティクス、現

実世界をコンピュータでシミュレートできる世界モデル（現実政界の構造に関するデータ）を予測・生成すること、提出物や作品から研究も進んでおり、今後はAIの生産活動のための環境整備とともに、労働状況の変化を踏まえた資本主義等の根本的な社会制度の改革が必要になると話した。

AI時代の人事・人間の能力の掛け算で人を評価することや、忍耐、力、泥臭さ、コミュニケーション力、愛嬌などのわかりにくい能力を重視すること、新人をライトな業務（議事録作成、翻訳、調査など）に割り当て、仕事をしながら育てる新しい仕組みを構築することなどが求められると強調した。